

令和5年度 第1回安曇野市自転車活用推進協議会 会議概要

1	会議名	安曇野市自転車活用推進協議会
2	日時	令和5年11月9日(木) 午前10時から午前11時50分まで
3	会場	安曇野市役所 会議室307
4	出席者	益山委員、佐藤亜紀子委員、村越委員、土屋委員(代理)、相澤委員、伴野委員、磯野委員、佐藤恵介委員、二木委員、花岡委員
5	欠席者	太田委員、平林委員、小林委員、松島委員
6	市出席者(事務局)	鳥羽部長、太月課長、丸山課長補佐、中島主査
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	なし

協 議 事 項 等

【次第】

- 1 開会
- 2 委嘱書の交付
- 3 商工観光スポーツ部長あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 役員の選出について
- 6 会長、副会長のあいさつ
- 7 会議事項
 - (ア) 安曇野市自転車活用推進計画に係る令和5年度の進捗状況について・・・【資料1】
 - (イ) その他・・・【資料2】
- 8 閉会

【会長・副会長の選出】

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市自転車活用推進協議会設置要綱第5条の規定により、会長・副会長を委員の互選により選任。 ・立候補者がいないため、事務局案として前任に引き続き、会長に益山委員、副会長に太田委員を推薦。
全委員	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし。

【会議事項】

(ア) 安曇野市自転車活用推進計画に係る令和5年度の進捗状況について

事務局	<p><事務局から説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料1】 A3版5ページ
委員1	<p><質問・意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日初めて市の施策を拝見して、目標に向け多くの施策が組み立てられており、「すごいな」と思ったのが正直なところである。 ・目標を立てるといことは、それを達成できたか確認する必要があると思うが、それぞれの施策について指標等はあるのか。 ・この施策が進むことであの施策も進むといった具合に、関係している施策があると思われる。 ・施策は継続していかないと尻すぼみになるおそれがあるため、施策間の連携を明らかにし、全体を車輪のように回していくことが今後必要になってくる。そういった全体像があるようならお示しいただきたい。ないようであればそういったものの検討も非常に重要ではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・指標については、計画策定時に盛り込めればよかったが現計画には指標がない。 ・施策の項目ごと事業に取り組んでいくことになっているが、目標に対する実績値は出ないので、今後庁内で詰めていく必要がある。 ・施策の連携についても、関係部局と連携していかないと整備も進まず、活用方法・PR方法も出来ないため、庁内でも調整を図っていきたい。 ・補足で、最初に計画を策定する時点では自転車利用率が5%を下回っていたため、まずは推進

委員 2	<p>期間として、あえて指標等は定めないことにした経過がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、動向を注視しながら、次回策定時には指標を設定していきたい。 ・まず、ハード整備を優先し、それをどう生かすかは次年度以降になるものと感じる。 ・サイクリングコースもでき、今年度Cコースのマップも完成するとのことだが、作成後にどう活用・展開していくのか。 ・自転車通行環境の整備については、矢羽根や標識の整備に注力しているが、気になるのはドライバーの資質である。観光客を含め、安曇野市に来ていただいた方にはそういう意識を持って走っていただくといった啓発活動の展望はどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングコースのソフト面については、明確な事業詳細が決定していない状況である。 ・コースの利用状況（客層、年齢層、自転車の種類等）を全く把握できていないため、来年度に利用者実態調査を行い、コース活用の方向性を考えながら、利用者の増加につなげたい。 ・ドライバーへの啓発、理解及び協力については、難しい面もあるが広報誌に特集ページを設けて、SNS等も活用しながら周知していきたい。
委員 3	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ及び観光分野に重点施策が多いと感じるが、市民も積極的に自転車を活用しなければならないと思う。 ・令和5年3月に市もゼロカーボン宣言をしているが、その中の大きな目標の一つが化石燃料に頼らない交通手段を利用して環境負荷を削減することを目標としているので、そのあたりを関係部局と連携してもらいたい。 ・自分も自転車に乗るが、自動車が怖くて安心して乗れない。観光客もスポーツ愛好者も市民も含め、是非、安心・安全な利用しやすい道路整備をしていただきたい。 ・環境整備のなかで、市道豊科1級24号線に矢羽根の設置とあるが、あまり自転車も自動車も通らない。交通量が少ない場所にラウンドアバウトが整備され、防災広場に直結する道であるためとは聞いているが疑問を感じている。利用者が多い違う場所に整備してもらいたい。用地買収や交通誘導等が大変だと思うが、「自転車活用推進」のなかで市民も利活用できる方策も考えてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課ではないので詳細について回答できないが、近辺にある小中学校の自転車通学のための安全面を想定して矢羽根を設置だったのではないかと思う。 ・市民が安心して乗れる道路でないと、観光客も安心して乗れる道にはならないので、ハード整備の担当課だけでなく、関係部局にも協議しながら進めていかなければならない。 ・資料には各施策の実施実績が記載されているが、本来、この場に各担当課が出席して報告しなければならないと思うので、次回の協議会までには調整したい。 ・この計画は、「自転車を活用したまちづくり」ということで、政策部が主体になって策定したものである。令和4年度の組織改編によりスポーツ推進課に移管された経過がある。計画策定段階では各課と協議しながら策定したものになるので、今後の課題として、関係課と連携しながら施策を進めていきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・計画のなかで市民向けの具体性が弱いと感じた。市民が自転車に乗り換えることのメリットを強調していく必要があるのではないか。自動車で移動した方が楽ではあるが、自転車に乗り換えることで感じる効果やメリットを指標にして、計画に落とし込むのもひとつの手段である。
委員 4	<ul style="list-style-type: none"> ・前市長の3期目の公約の一つに「自転車が日本一楽しいまちづくり」があり、自転車に関する事業が少しずつ進み、立派な計画が完成したと感じている。 ・足りなのは市民も観光客も含め、「なぜ安曇野に来て、自転車に乗るのか」ということではないか。先日読んだ新聞に、ペダリングがウォーキングよりも成長ホルモンの分泌がよくなるという記事が載っていた。このように自転車に乗ることでの健康効果もPRできる。 ・やまびこ自転車道が市内を南から西を回って穂高橋まで続いているが、補完して東側と南側を環状に市内を自転車で走ると、美味しい店や素晴らしい景色がどこで見えるといった安曇野の魅力が沢山出てくる。 ・スマホで撮った写真をChatGPTに入れて市の自転車政策に何がいいのか質問したところ、「健

	<p>康」と「景色の良さ・癒し」を謳った方がいいのではないかという提案が出てきた。そこで、安心・安全な農作物を作っている農家と連携して、安曇野へ来たら健康で癒しのある食事を味わえることをPRするのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民・観光客に対して、安曇野は自転車で走ったら健康にもなるし楽しいし、文化芸術も親しめるといことで他の都市と差別化を図った方がいいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や景色の良さを生かしたのものとして、やまびこ自転車道に限らず、今回設定した市のサイクリングコースも紹介できればと考えているが、その前にPR不足を実感している。農家などと連携することで、観光協会ともタイアップしてツアーを組んだりすることも考えられ、自転車活用によるまちづくりに貢献できるものとする。少しずつの前進にはなると思うが、関係部局とも連携しながら協力をお願いしていきたい。
委員 5	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車と観光を組み合わせはすでに取り組んでおりツアーも企画している。例えば、自転車に乗ってわさび田を巡るツアーがあり人気である。また、自転車で三郷のりんご園に行ったりりんご狩りをして、そのりんごでアップルパイを作るツアーも好評である。 ・観光協会では、観光客が主体であるが、市民の参加も結構見受けられる。 ・ツアー参加者は、自転車が環境にも健康にもいいことは分かっているが、それ以上に、おいしいものを食べたり・楽しい行事を体験したいといった切り口の方が好まれるのではないかと感じる。 ・シェアサイクルについて、現在、ポートが18か所あり年々増やしている。松本市も同じシステムを導入しているため、松本—安曇野間の連携ができています。また、塩尻も最近導入予定であり、長野県内で同じシステムを使えば広域連携ができる。PR不足もあり、多くの方に知られていないのでもっと広げていく必要がある。 ・自転車に関わる観光面において、多くの方が興味を抱いて参加してもらうには、今後、観光協会として努力していかなければならないところであると強く感じている。
委員 1	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の自転車の普及という観点で、メリットが何かはもちろん重要だと思うが、デメリットも確かに存在し、特に安全面である。主幹道路の走行は大変恐ろしい。代わりに、裏道や細い道を走行することで比較的安心して走ることができる。これは、自転車を利用する側のひとつのノウハウだと思っている。主幹道路に自転車専用帯を整備するのは非常に費用が掛かり大変なことである。そのため、ノウハウがあれば自転車の購入意欲にもつながると思う。 ・買い物にも自転車で行くが、ほとんどの人が自動車で来る。近所の人もいると思うが、そのうちの3割でも自転車に切り替えるようなソフト面でのノウハウを強くアピールしていくことも重要だと思う。 ・電動アシスト付き自転車は非常に楽であり、高齢者が抱える不安を取り除くことにもつながるので、自転車活用推進の観点から、購入時の補助などを考慮してもらいたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・職員には、自らが自転車に乗って通勤するよう取り組んでみてはどうか。松本市は、駅前でシェアサイクルを借りて、職場まで行く人も見受けられる。 ・中高生を巻き込んで、安全に走るための意見交換もしてはどうかと思う。子どもから大人に広げていくのも一つの手段として取り上げてみてはどうか。 ・自動車から自転車に乗り換えてもらうためには、具体的にどうしたらいいのかを課題に挙げて考えてもよいのかと思う。
委員 4	<ul style="list-style-type: none"> ・松本で電動シェアサイクルを借りて安曇野を通り松川へ抜けていくコースが走りやすく、走っていると目の前に爺ヶ岳などの山々の素晴らしい景色が見えてくる。他地域では味わえない山々の景色が見られるのも売りにできるのではないかと。 ・普通の道を走るのはやはり危険である。自分は、なるべく派手な服装でヘルメットを着用して抜け道を走行している。そういったことを情報共有するとより自転車に乗ることが楽しくなるのではないかと。改めて、安曇野市の魅力の再発見にもつながると思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車に乗って見つけた安曇野の美しさのようなものを、市民が投稿できるウェブサイトなどがあれば、楽しさを感じながら自転車利用者も増えて面白いかもしれない。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある景色・食べ物の情報を収集し、発信していかなければならない。その仕組みを検討しながら進めていきたいと考える。
委員 6	<ul style="list-style-type: none"> 本来、自転車は車道を走行するものだが、怖くて走行できない車道もあるため改善してもらいたい。 安曇野市は道の脇が汚い。砂だらけで草木も生い茂っている。ずっと続いている一斉清掃等の際に、道の脇も草刈りするなどのPRをしてほしい。地域で連携することで、より効率的な美化活動につながる。 市もロードスイーパーを導入してもらいたい。また、市民が道を綺麗にしたいという気持ちになるような施策を進めてほしい。自転車で走りたいまち、安心して走れるまちになるような仕組みづくりをしていってほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、関係部局との連携が十分機能を果たしていないことは重々承知している。 ロードスイーパーについては、現在、市では導入していないが、都市建設部へ話があったことを伝えたいと思う。 美化活動については、市民生活部も関わってくるので、関係部局と連携しながら進めたい。
【会議事項】 (イ) その他	
事務局	<p><事務局から説明></p> <p>①令和6年度の事業計画及び予算計上事業などについて</p> <ul style="list-style-type: none"> サイクリングコースの利用実態調査やコースの再検証、マップの見直し及び今後の利用促進に向けた取り組みを進めていく。 マウンテンバイクコースがオープンから3年目となり、より多くの市民に親しみを持って利用してもらうことを目的としたイベントを開催する予定。 <p>②今後の協議会開催時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> 役員改選に伴い11月に開催したが、通常は毎年5月に開催し、前年度の進捗状況内容を検証しながら、翌年度事業へつなげていくような流れで進めていく。
会長	<p><会長から説明></p> <p>③安曇野サイクリングルート通行実態予備調査結果の報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> 【資料2】A4版2ページの概要説明 25名分のアンケート調査しかできなかったが、その結果を見返すと、本日委員から出た意見などと共通する部分があったのではないかと感じた。 予備調査の中で、グーグルマップをスマートフォンで確認しながら目的地へ向かう人が何人か見受けられた。位置情報、コースルートが分かるようなデジタルマップがあるとさらに良いのではないかと感じた。
委員 1	<ul style="list-style-type: none"> 矢羽根が付いたとのお知らせがあったので、安曇野市サイクリングマップ完成前にAコースを走ったが、途中で矢羽根がなく大変困惑した。土地勘のない観光客などが同じ状況になったら、マップの信頼性、信憑性は一気に失われ、二度と来てもらえなくなるだろうと感じた。マップを発行するのであれば、ハード面をしっかりと整備し、誰もが分かりやすいものでなければマイナスイメージばかりがついてしまう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 道路改良や工業団地造成等でコースの一部で矢羽根のない場所があることは承知している。利用者に混乱を招く事態を避けるため、建設整備課と協議のうえ早急に対応する。
委員 6	<ul style="list-style-type: none"> 調査報告に、ヘルメット着用に関する施策があるが、レンタサイクル店舗でヘルメットを貸し出さなくても問題ないのか。努力義務とはいえ、行政から指導はできないのか。 観光協会所管のシェアサイクル店舗ではどうなっているか。
委員 5	<ul style="list-style-type: none"> ポートの設置看板に「無料貸出」を記載し、アプリにも掲載している。有人ポートでの貸出が

	<p>原則であるが用意している。ただ、実際に借りる人の割合は1%も満たないと聞いている。努力義務ということで、強制まではできない状況である。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・法律上、仕方がない部分ではある。駅前の駐輪場にポスター等で啓発活動を行っているが、なかなか浸透していないものと思われるので、今後の課題として検討していきたい。
委員 4	<ul style="list-style-type: none"> ・山中でマウンテンバイクに乗る時はヘルメットが必須である。平地でも車の風に煽られて転倒したときに、もし縁石に頭をぶつければ死亡事故にもつながる。命を守るということが重要である。 ・女子は、やはりヘルメットを被りたがらない。お洒落なヘルメットを作るようメーカーに働きかけたり、アイデアを募集したりしてもよいのではないか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客もそうだが、まずは、市民が積極的にヘルメットを被るような仕掛けが必要である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の報告にも、来年度ヘルメットの購入補助等を検討しているようなので、そういう機会を活かしながらヘルメット着用をPRしていきたい。
	11時50分 了